

坂田たけふみ 市政報告



2019年1月発行 発行人 坂田たけふみ

連絡先 稲城市議会事務局 〒206-8601 東京都稲城市東長沼 2111 代表電話 042-378-2111 FAX 042-378-9737

公式ホームページ「坂田たけふみ」で検索！ Facebook ページもご覧ください

「住んで良かった」「住み続けたい」稲城市を目指して！

議員 2 期目の任期も残りわずかとなる中、無事に新年を迎えられましたのも皆様のおかげと感謝申し上げます。

いよいよ、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を来年に控え、稲城市では自転車ロードレース競技が、市内を通過するコースに組み込まれることが正式に決定しました。稲城市は多摩丘陵の緑豊かな自然環境に恵まれ、休日には多くのサイクリストが訪れます。市としても自転車の街を目指し、自転車の更なる利用促進を促しています。

そうした中、一般質問で提案させていただいた、シェアサイクル「のりすけ」が今年の 9 月 20 日に利用開始となりました。新たな移動手段の一つとしての役割が期待される中、今後市内各所においてサイクルポートが増設されることで、更なる利便性の向上が図られます。公共交通機関の補完としての機能や、市内回遊による観光利用など様々な用途による利用が可能となります。

これからも、「誰もが住んで良かった」「これからも住み続けたい」稲城市を目指し、頑張っまいります。



総務委員長として 特定所管事務自主調査事項報告をまとめました

大規模災害被災者の生活再建・復興について

総務委員会では、平成 23 年 6 月に「稲城らしい地域防災計画の作成に向けて」をテーマに特定所管事務調査を行いました。その中で、応急期に続く生活再建についての公的支援のあり方が課題として挙げられていました。

このことから、私が委員長を務めた今期の総務委員会（平成 29・30 年度）では、「**大規模災害後における被災者の生活再建の課題・復興に向けた取り組み**」をテーマに、調査を行いました。調査を行う中で、各委員からは○生活再建システム・り災証明、○生活再建への取り組み、○災害復興計画などに対する意見・提案等が出され、特に、生活を被災前に戻すときや復興を進めていくときに、何が大事なのかといった課題の整理が不十分であったため、その後の生活再建に対する検証では以下の項目が挙げられました。

1. 住まいを元に戻すこと
2. 人と人の繋がりを元に戻すこと
3. 街の復興ができない限り、個人の生活再建はできないこと
4. 心と体のストレスの緩和が重要なこと
5. 次の災害への備えが大切であること
6. 職業や家計、生業、暮らしが安定すること
7. 行政が行う早期被災者支援が必要なこと

当委員会が実施した行政視察では、今もなお復興に向け尽力されている被災者の皆様から貴重な意見を伺うことで、被災後における生活再建の重要性を改めて認識することができました。大規模災害後における被災者の生活再建・復興に向けた取り組みとしては、まず、**市民の生活再建の基盤をしっかりと固め、被災者の暮らしを一日も早く震災前の状態に戻すことが肝要**です。そのためには、災害に係る住家被害の認定調査から、り災証明の発行、被災者台帳の作成まで**一貫した具体的な行動マニュアルを策定**し、さらに、被災地の**災害復興支援等に派遣された職員の経験を活用**し、定期的な訓練を実施することを提言しました。



総務委員会の行政視察にて



シェアサイクルの導入 総合体育館の老朽化対策等を提案！

平成 30 年第 3 回定例会（9 月議会）での一般質問

稲城市におけるシェアサイクルの導入について

Q 観光や生活の便利な足として、また健康増進などの面から手軽に利用できるシェアサイクルについては多くの良い点が指摘されています。東京 2020 オリンピック競技大会の自転車ロードレースが稲城市をコースの一部とすることも決定し、自転車に対する市民の皆さんの関心が高まっていることから、稲城市におけるシェアサイクル導入について、市の対応を質問しました。

また、特に府中市では民間企業がシェアサイクル事業を開始して好評を得ており、稲城市としても参考にしたいかがかと、市の見解を伺いました。

A 市では、稲城市観光基本計画に基づいて、東京都のシェアサイクル実証実験に参加したり事業者からヒアリングを行うなど検討を重ねてきましたが、運用する自転車の台数や駐輪場の確保、経費などの面から市の事業としては導入に至りませんでした。

府中市の事例についても情報を入手しており、市に新たな費用負担が生じない、他自治体でも導入が拡がりつつあるなど評価すべき点が多いことから、導入に向けて検討している、との回答を得ました。

○坂田たけふみより

シェアサイクル導入に向けて検討中とのことですが、東京オリンピックの自転車ロードレース競技のコース決定を受けて、市民の自転車への関心も高まっているところですので、導入に向けて一日も早く検討を進めていただくよう、要望しました。

その後、9 月議会の会期中にシェアサイクル「のりすけ」のサービスが稲城市でも始まることになり、9 月 21 日に市役所で高橋市長をはじめ市議や職員が参加して試乗会が催されました。

私の一般質問から時をおかずにシェアサイクル導入が実現したことに感謝いたします。

この他、「マイナンバーカード（個人番号カード）の取得促進」「特定生産緑地制度」「稲城市緑の基本計画」について、市の取り組みや見解を質問しました。

坂田たけふみの基本政策

1. 防災・防犯に強いまちづくり

消防署、警察署、行政と各種関係団体との連携強化

2. 教育

スポーツを通じた青少年の健全育成
教育環境の整備・促進

3. 福祉

高齢者の介護予防、健康増進
子育て支援の充実

4. 都市基盤整備の推進

各区画整理事業の推進
生活道路の整備促進

5. 市内産業の活性化

商業・農業・建設業など市内産業の
活性化による地域経済の振興



シェアサイクル「のりすけ」のサービスが稲城市でも始まり、市役所で行われた試乗会にて高橋市長と

平成 30 年第 4 回定例会（12 月議会）での一般質問

総合体育館の大規模改修について

Q 中央公園内にある総合体育館は、平成 4 年の開設から 27 年が経過して施設が老朽化してきており、心配する市民の声も聞こえています。第四次稲城市長期総合計画でも「総合体育館などの大規模改修を進める」とうたわれており、市民が安全で安心してスポーツを楽しめる施設の改修を進めるべきと考え、市の認識と見解を質しました。

A 総合体育館施設は経年劣化による老朽化対策が必要であることは認識しており、第四次稲城市長期総合計画に掲げた様々な事業についても着実に実施してきましたが、総合体育館などの改修には莫大な費用が見込まれ、財源の確保等に課題があることから、優先順位を決めて順次進めている、との回答を得ました。

○坂田たけふみより

老朽化対策を行う財源の確保が最大の課題であると認識し、質問の中で以下の 2 つを提案しました。

① 災害時における復旧・復興拠点や生活援助物資の中継基地となる防災拠点、避難者の生命を保護する避難所となる施設を整備するための「社会資本整備総合交付金、防災・安全交付金」（国土交通省所管）という制度があり、これを活用して大規模改修などの老朽化対策を進めるべき。

② 町田市では、陸上競技場を改修するためにふるさと納税制度を活用し、市民から約 2200 万円の寄附を集め、返礼品として美術館のパスポートや同市を拠点とするプロスポーツチームのホームゲーム招待券等を用意するなど、財源確保のために様々な工夫を行っており、稲城市でもこのようなふるさと納税を活用した財源確保は出来ないか。

これに対し市からは、町田市を参考事例に、ふるさと納税を活用した財源確保を研究したいとの回答があり、今後の施策に期待したいと思います。

この他、「オープンデータの利活用」「生産緑地」「都市農地の貸借の円滑化に関する法律への市の対応」「がん検診の受診率向上事業と精度管理向上事業」について、市の取り組みや見解を質問しました。



稲城市柔道連盟の会長を仰せつかって初めての大会「第 21 回稲城少年柔道大会」にてご挨拶しました



音楽に合わせて行う「バーチャルボクシングレッスン」!! 多くの参加者の皆さんと楽しく爽やかに汗を流しました